

精神医学の知と技

Knowledge and Arts of Psychiatry

精神分析を考える

中山書店

西園昌久

● Masahisa Nishizono

精神医学の知と技
Knowledge and Arts of Psychiatry

西園昌久 ● Masahisa Nishizono

精神分析を考える

中山書店

目次

第一章	九州大学で精神科医になるまで	3
第二章	精神分析療法	15
第三章	ライフサイクルと精神療法―身体的自我	41
第四章	薬物精神療法の開発 ―治りにくい病態への治療的挑戦	59
第五章	神経症研究	81
第六章	治りやすいうつ病 治りにくいうつ病	103
第七章	二つのボーダーライン（境界性）障害	119

第八章

統合失調症―治すこと、癒すこと、

よりよく生きること

141

第九章

国際交流―外国に学ぶ

185

第十章

文化精神医学

207

第十一章

チーム医療

219

第十二章

精神医学教育 WHO協力センター

233

第十三章

精神療法のすすめ

247

あとがき

文献

索引

精神分析を考える

第一章 九州大学で精神科医になるまで

なぜ精神科医になったか

この本を書くにあたり、まず、なぜ精神科医になったのかということ、自分史という形で記したいと思います。

私は、日本有数の産炭地であった筑豊炭田の真ん中に位置する、現在の福岡県飯塚市に農家の長男として生まれました。父は大変先覚的な考えの持ち主で、母親は家の苦勞を一手に引き受けるような人でした。

太平洋戦争が始まった翌年に、私は旧制中学に入学。町中に鬼畜米英と書かれた貼り紙があふれているような時代でしたが、それでも三年のはじめごろまではなんとか普通に勉強することができました。しかし、戦況が悪化するにつれ状況は変化し、三年の半ばからは学徒動員で近くの炭鉱に働きに行くようになりました。

ところで、当時の中学生は軍隊の学校に進むことを強く勧められたものです。級長をしていた私も、担任から新しくできた海軍兵学校予科にぜひ進学するよういわれました。軍隊の学校に進む気がなかった私はその話を断ったのですが、担任は私を職員室に呼び出して強く説得。あくまでも拒否する私に対し、ついには「国賊といわれるよ」という言葉まで口にしました。人生経験の乏しい中学三年生にとつて、その時代に国賊といわれることは大変な屈辱です。職員室にいた他の先生方は担任と私のやりとりを遠巻きに眺めていましたが、そのなかには、私が授業を通じて尊敬していた数学の先生もいらっしゃいました。そこでその日の夜、私は意を決してその先生のお宅を訪ね、自分の気持ちを聞いてもらったのです。すると先生は、「戦争は一時のこと。学問は永遠のこと。あとは自分で考えろ」とおっしゃいました。その言葉で心が決まり、私は海軍兵学校予科への進学を正式に断ったのです。私の人生のなかで、この体験は非常に大きな出来事でした。

やがて戦争が激しくなり、八幡（北九州市）にある八幡製鉄所がB29の爆撃を受けるということも起こり始めます。私はその当時、空襲警報が出ると学校に行き、物見櫓に上って周囲を警戒するという役割を与えられていました。そんなある日のこと、物見櫓には私と同級生と歴史の先生の三人だけが上り、周囲は夜の闇でなにも見えず、互いの心臓の音が聞こえそうなほど静まりかえっていました。すると、先生が突然、「君たち、死ぬ覚悟はできているか」と問うたのです。そんなことは考えたこともなかったので驚きましたが、なぜか次の瞬間、死ぬというのはこ

ういうことかといったような、なにか不思議な感覚が身内に生じたことを覚えています。この感覚はその後しばらくフラッシュバックしていましたが、一年半ほどかかって消えていきました。

戦争が終わったのち、私は熊本の旧制高等学校に入学しました。当時の私にとって、将来になくなるかということは非常に大きな課題でしたが、私が三年生のときに台湾から引き揚げてこられた滝沢寿一先生というドイツ語の先生が教材として使った、シュバイツァーの『水と原生林のはざまにて』という本が大きな転機となりました。そのころはまだ本が手に入らず、先生は自分の本を数ページずつタイプしては皆に配って教材にしたのですが、その授業は単にドイツ語を習得するだけでなく、そのなかに書かれている「生への畏敬」の大切さといったシュバイツァーの哲学を論じる場でもありました。本の内容をドイツ語に翻訳することを通じて、他者への尊敬と責任といったことをクラスのなかで論じ合う機会を作ってもらったわけです。このことにより、中学時代の体験からどこかでもやもやし続けていた私の気持ちのなかに、ある解決がみつかりました。そして、私は地元の九州大学医学部に進学したのです。

九州大学医学部では、終戦後アメリカからいろいろな情報が入ってきており、アメリカの精神医学の影響が少しずつ表れていました。そうしたなかで、臨床の各科を越えた臨床心理研究会といったものが作られ、学生もそこに参加するよう勧められていたため、私も出席する機会をもちました。卒業後は、私はあえて関東の国立相模原病院（神奈川県）でのインターンシップを希望。それまで九州ばかりに住んでいたので、井の中の蛙になってはいけないと思ったからです。

インターンで内科にいたときに、私はある患者さんと遭遇します。ヒステリーと診断されていた患者さんでしたが、一日に何回も過呼吸発作と全身痙攣を起こす。しかし、内科の先生も、一週間に一度来る精神科の先生もなすべがなく、その患者さんはただ入院しているだけでした。私はその患者さんに強い関心をもったのです。診断がついているのに治療ができないのはどうしてだろうかという疑問と、一日に何回も過呼吸と痙攣とを起こす症状の不思議さに突き動かされて、私は自らその方の面接を希望しました。それには、前述の臨床心理研究会での知識が多少あったのに加え、当時、フロイトの『精神分析入門』という本を読んでいたことが関係しています。驚いたことに、数日間熱心に面接しているうちに症状が徐々に少なくなり、とうとう消えてしまったのです。そこでいったん退院してもらったのですが、数日後、症状が再発して再度入院。私の心には、もっとしつかり面接すればこの患者さんは治るのではないか、という気持ちが芽生えました。

古澤平作先生の精神分析訓練

当時の私は、精神科医はだれでも精神分析治療というものができると思い込んでいましたが、先の患者さんを診ていた精神科医からそうではないと教えられ、その先生から古澤平作という人を紹介されました。「古澤平作先生とはどんな方だろうか」と思って図書館で調べてみると、大

西園 昌久 (にしぞの まさひさ)

- 1928年 福岡県生まれ
1953年 九州大学医学部卒業
1971年 九州大学医学部助教授(精神医学)
1973年 福岡大学医学部教授(1999年まで) その間、医学部長5期10年
1993年 WHO 協力センター(福岡大学) 所長(2001年まで)
1999年 福岡大学名誉教授/心理社会的精神医学研究所 開設

この間、日本精神神経学会、日本精神分析学会、西太平洋地域医学教育連合、環太平洋精神科医会議、アジア児童思春期精神医学会、多文化間精神医学会、日本精神分析協会、SST 普及協会の会長歴任
現在、PPST 研究会 会長

〔主な編著書〕

- 『薬物精神療法』(医学書院)
『新しい精神医学と看護』(医学書院)
『精神分析治療の展開』(金剛出版)
『精神分析を語る』(岩崎学術出版)
『ライフサイクル精神医学』(医学書院)
『精神分析治療の進歩』(金剛出版)
『専門医のための精神医学』(医学書院)
『環太平洋諸国と21世紀精神医学』(金剛出版)
『精神分析技法の要諦』(金剛出版)
『精神医学の現在』(中山書店)
〈西園精神療法ゼミナール〉『精神療法入門』『力動的な精神療法』『精神療法の現場から—実践 力動的な精神療法』(中山書店)

〔受賞学術賞など〕

- 1990年10月20日 日本精神分析学会賞(古澤賞)
1996年10月 3日 1996 Alexander Gralnick Award for Excellence for Promoting Psychosocial Rehabilitation (アメリカ心理社会的リハビリテーション学会)
1999年 7月29日 日本医学教育学会医学教育賞(牛場賞)
2001年 2月17日 多文化間精神医学会賞
2003年 5月22日 アメリカ精神医学会 Kun-Po Soo Award
2009年 9月30日 世界文化精神医学会 Life Achievement Award
2010年 9月 4日 日本スポーツ精神医学会功労賞

中山書店の出版物に関する情報は、小社サポートページを御覧ください。
<http://www.nakayamashoten.co.jp/bookss/define/support/support.html>



せいしん いがく ち わざ
精神医学の知と技
せいしん ぶん せき かんが
精神分析を考える

2014年7月10日 初版第1刷発行
[検印省略]

にしぞの まさひさ
著者……………西園 昌久

発行者……………平田 直

発行所……………株式会社 中山書店
〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14
TEL 03-3813-1100 (代表)
振替 00130-5-196565
<http://www.nakayamashoten.co.jp/>

装丁……………花本浩一 (麒麟三隻館)

印刷・製本…図書印刷株式会社

©Masahisa Nishizono 2014
Published by Nakayama Shoten Co.,Ltd.
ISBN978-4-521-73966-3

Printed in Japan

落丁・乱丁の場合はお取り替え致します

- 本書の複製権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は株式会社中山書店が保有します。
- JCOPY (社)出版者著作権管理機構 委託出版物)
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構（電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

本書をスキャン・デジタルデータ化するなどの複製を無許諾で行う行為は、著作権法上での限られた例外（「私的使用のための複製」など）を除き著作権法違反となります。なお、大学・病院・企業などにおいて、内部的に業務上使用する目的で上記の行為を行うことは、私的使用には該当せず違法です。また私的使用のためであっても、代行業者等の第三者に依頼して使用する本人以外の者が上記の行為を行うことは違法です。